

シラバス

(令和5年度 1年生用)

シラバス（学習の手引き）の活用

- 科目のねらい、目標、講義計画（学習内容・評価方法）等が示されているので、確認して授業に臨むこと
- 1科目に複数の講師がいる場合、講義順は順不同になるため注意する
- 授業科目名とテキスト名は一致しない
- 何を目的に、何を学び、どう評価を受けるのかを知っておく
- 1年生は1年次の科目から修得する（1年次の単位を取り残さないことが大切）

学習の手引き

講義時間 45分を1時間とし、1講あたり2時間の授業を行う。

13:00～13:45 } 1講

13:45～14:30

14:50～15:35 } 2講

15:35～16:20

ショートホームルーム・清掃 16:20～17:00

シラバスの活用

- (1) 科目のねらい、目標、講義計画（学習内容・評価方法）等が示されているので、確認して授業に臨むこと。
- (2) 1科目に複数の講師がいる場合、講義順は順不同になるため注意する。
- (3) 科目名と教科書のタイトルは一致しないこともあるため注意する。

評価

- (1) 各授業科目の出席時間数が授業時間数の3分の2以上に達した者が評価を受ける。
- (2) 科目修了試験は原則として、科目の最終授業時間内に実施する。
- (3) 筆記試験の原則は45分間、100点満点とする。
- (4) 試験開始から30分は原則として退室してはならない。
- (5) 評価60点以上を合格とし、不合格者に対しては本人の願いにより再試験を行う。
- (6) 評価対象が複数（筆記試験とレポート課題等）合算される場合、未提出の課題があると修了試験放棄として扱われることがある。

試験申し合わせ事項

- (1) 再試験についての連絡は掲示板で行う。
- (2) 「再試験願」は事務所の窓口から提出する。
- (3) 期日までに再試験料を未納の者は受験できない。
- (4) 再試験は原則として12:00から12:45まで行う。
- (5) 「再試験料受領書」を机の上に置き受験する。
- (6) 「再試験願」提出締め切り日、試験開始時間に遅れた場合は受験資格を失う。
- (7) レポート・論文等の課題における試験についても上記(1)(2)(3)(6)に準じる。
- (8) 筆記試験・レポート・論文等の課題において、不正行為（カンニング、盗作、同一内容のレポート等）が認められた時は理由如何にかかわらず、評価は0点とする。
- (9) 追試験については学則、規定を参照すること。

試験の手引き

注意点

- ・ 試験中は筆記用具及び特別に許可された物のみ机の上に置くことができる。
- ・ 携帯電話の電源を切る。(マナーモードは禁止)
- ・ 荷物は着席している椅子の下または教室内の指定された場所に置く。
- ・ 長い髪はうつむいた時に髪が顔を覆わないようにまとめておく。
- ・ 開始の合図があるまで、試験用紙は伏せたままで手を触れない。
- ・ 試験時間の3分の2を経過し、試験終了時間5分前まで退出を認める。その際、答案用紙を下、問題用紙を上にして、机の上に裏返し、静かに退出する。
- ・ 一度退出すると再入室は認められない。体調不良の場合には、試験監督者に申し出ること。
- ・ 試験中の質問や物を落とした時は、挙手をして試験監督者を呼ぶこと。
- ・ 氏名、学籍番号または受験番号の書き忘れ、誤字はそれぞれ減点の対象となる場合がある。
- ・ 不正行為と疑われる動作を認めた場合には受験を無効とする場合があるので、注意する。

(例) 手を机の上以外に動かす (髪をかきあげるなど)

周囲を見回す

声を出して問題や解答を読む

他人に見えるように用紙を立てて持つ

許可なく上着の着脱をする

あぐらや膝を立てて座る 等

不正をしたかどうかではなく、不正をしていると疑われる動作を行わないことが大切である。

申し合わせ事項

- ・ 科目修了試験の場合、授業時間の3分の2以上の出席が必要である。
- ・ 原則として欠席を認めない。やむを得ず欠席する場合には、事前に連絡する。病欠の場合は後日診断書を提出する。欠席となる事由がなくなった時点で、すみやかに追試験願いを提出する。
※欠席の事由となったことを証明するもの(診断書など)を追試験願いと共に提出する。
※追試験は得点の8割を成績点とする。
- ・ 連絡は掲示板で行い、期日までに所定の手続きを済ませる。
- ・ 再試験は原則として12時から行う。
- ・ 再試験の場合は再試験受領書を机の上に置き受験する。
- ・ 再試験願い提出締切日までに手続きを済ませなかった場合は受験資格を失う。
- ・ 試験時間の3分の2以上遅れた場合は受験資格を失う。
- ・ レポート、論文等の課題においても上記に準じる。
- ・ レポート、論文等の課題において、不正行為(盗作、同一内容のレポート等)が認められた場合は理由の如何にかかわらず、評価は0点とする。
- ・ 評価対象が複数(筆記試験とレポート課題等)合算される場合、未提出の課題があると修了試験放棄として扱われることがある。

*国家試験に向けて、試験に臨む時の心構えは日ごろから注意してください。

レポートの書き方

(学校規定の書式について)

学校では講義や実習などで多くのレポートを作成します。正しくレポートを作成しなければなりません。日頃から丁寧な文章作成を心掛けてください。

1. 注意点

- 1) 文章は簡潔で、明快な表現であること。(1文は70字程度)
- 2) わかりやすい言葉、表現を用いる。くせ字や一般的でない略字は不可とする。
- 3) 語調は、「です・ます」調か「である」調のどちらかに統一する。
- 4) アルファベット、数字は1マスに2文字(半角)、(「、。は1マスに1文字(全角)
- 5) 格助詞(と、の、が、へ、や、から、を、に、より、で)を適切に用いる。
- 6) 「師長さん」「指導者さん」など、敬称に「さん」はつけない。「患者」にも通常のレポートでは「様」はつけない。
- 7) 文献から文章を引用した場合には引用番号を振り、文末に引用文献を必ず記載する。

【雑誌】引用番号) 著者名: 表題名, 雑誌名, 巻(号), 頁, 発行年次(西暦).

【単行本】引用番号) 著者名: 書名, (版), 頁, 発行所, 発行年次.

【訳本】引用番号) 原著者名, 訳者名: 書名, (版), 頁, 発行所, 発行年次.

- 例 1) 横田実恵子: 多診療科におけるアロマセラピーの実践, 看護技術, Vol. 58, No. 4, P. 51, 2012.
2) V. ヘンダーソン, 湯槇ます他訳: 看護の基本となるもの, 再新装版, P. 114, 日本看護協会出版会, 2016.
- 8) 特に指定のない場合、学校指定の表紙をつけ、上部2か所をホチキスでとめる。
 - 9) 提出期限に遅れる、テーマに沿っていない内容、書式が守られていないなどの場合、評価を受けられないこともあるので注意する。

2. 手書きで作成する場合

- 1) 特に指定のない場合、学校指定の用紙を用いる。
- 2) 書体は崩さず、楷書で丁寧に書く。
- 3) 黒のボールペンかペン(消えないインク)を用いて作成する。(修正液は極力用いない)

3. OA機器で作成する場合

- 1) 罫線や原稿用紙枠のないA4サイズの白紙に印刷してよい。
- 2) 書体はMS明朝とする。
- 3) 漢字の変換ミスに注意する。
- 4) 半角変換などにより、文字位置がずれることがあるが、わずかであればそのままよい。

レポート用紙指定の場合

文字サイズ	11ポイント
文字行数	1行 41桁 32行
用紙	A4縦 横書き
余白	上下左右 25mm

原稿用紙指定の場合

文字サイズ	11ポイント
文字行数	1行 20桁 20行
用紙	A4縦 横書き
余白	上下左右 25mm

令和5年度 34期生【1年次に修得すべき授業科目と単位】

単位修得数：26 単位

基礎分野：6 単位

専門基礎分野：11 単位

専門分野：9 単位

科目名	講師名	単位	科目名	講師名	単位
《 基礎分野 》			病態と治療Ⅲ (消化器・泌尿器・内分泌系)	原田佳・河崎 高野	1 (30)
生物学	川手	1 (15)	病態と治療Ⅳ (女性生殖器)	高屋敷・大谷	1 (15)
論文作成の基礎	真野	1 (30)	薬理学	原・橋本	1 (30)
家族社会学	長野	1 (30)	生命倫理	関根	1 (15)
人間関係論 (歌舞伎鑑賞 2h 含む)	荻久保	1 (30)	《 専門分野 》	※実務経験者による講義	
発達心理学	福井	1 (30)	看護学概論 (講演会 4h 含む)	椿・高野 長谷川	1 (30)
健康スポーツ学 新入生歓迎体育祭 5h	國井・椿慎	1 (45)	生活機能のアセスメント	國井 須田・桑田 安藤・堤	1 (30)
《 専門基礎分野 》			生活機能を支える 看護技術	國井 須田・桑田 安藤・堤	1 (30)
解剖学	晝間	1 (30)	暮らしを支える看護	安藤・椿 岡林	1 (30)
生理学	晝間	1 (30)	成人・老年看護概論	須田・國井 外部講師	1 (30)
生化学	穂苅	1 (30)	健康保持・増進する看護	須田 外部講師	1 (15)
病理学	佐藤・熊澤	1 (30)	小児看護概論	桑田	1 (30)
微生物学	川手	1 (30)	母性看護概論	高屋敷	1 (30)
病態と治療Ⅰ (呼吸器・循環器・造血器)	田川・野中	1 (30)	精神看護概論	中島・堤	1 (30)
病態と治療Ⅱ (脳神経系・運動器・感覚器)	大貫・柏木 河井・大前・桑田	1 (30)			

生物学

1単位（15時間 7.5コマ）

川手 喬

【科目設定理由】

自然科学の一分野を通し、科学的思考力を鍛える。
生命の本質を学び、専門分野を理解する一助とする。

【授業のねらい】

1. 生物学の基礎知識を身につける。
2. 生命を生物体としてとらえる。
3. 生命の流れを軸とした固体の変化をとらえる。

【講義計画】

1. 生命の最小単位である細胞の仕組みと働き、及び個体の成り立ちについて理解する。
2. 細胞膜の構造、細胞膜を通しての物質の移動、浸透圧とそれに伴う現象など物理化学的な基礎原理について理解する。
3. 食物から栄養物を取り入れて体を作る同化作用について理解する。
4. 体の構成成分を分解してエネルギーを遊離する異化作用について理解する。
5. 内部環境としての体液の役割について理解する。
6. 体の調整機構である神経系の仕組みと働きについて理解する。
7. 生体内の内部環境をつくる内分泌系とホルモンによる調整について理解する。
8. 科目修了試験（45分）

【評価方法】

筆記試験：100点

【教材】

教科書：＜系統看護学講座 基礎分野＞ 生物学
その他：プリント

医学書院

【備考】

論文作成の基礎

1単位（30時間 15コマ）

真野 利紀

【科目設定理由】

論理的思考の力を育て、正しい文章表現を身につけることをねらいとしている。

【授業のねらい】

1. 論文・レポートを書く上の基礎知識を身につける。
2. 参考文献・資料を集め、正しく活用できる。
3. 文章構成力・表現力を身につける。

【講義計画】

1. 講義ガイダンス
2. 文章を書くための基礎知識Ⅰ
3. 文章を書くための基礎知識Ⅱ
4. 段落・文章の構成
5. 参考文献・資料の収集
6. 文章の要約
7. 中間試験・発想材料を使った文章作成の準備
8. 発想材料を使った意見文作成
9. 身近な問題点についての説明文作成
10. 調べた事例についての説明文作成
11. 引用を使った意見文作成
12. 反駁を使った意見文作成
13. 資料の分析による意見文作成
14. 自分で資料を集めて意見文作成
15. 科目修了試験

【評価方法】

毎回の課題・中間試験・修了試験を通算して評価する。

課題	55点
中間試験	20点
修了試験	25点

【教材】

PowerPoint 使用・毎回講義資料を配信

【備考】

A4サイズのファイルを準備し、毎回の課題を保管しておくこと

家族社会学

1 単位（30 時間 15 コマ）

長野 慎一

【科目設定理由】

社会の中に存在している人間関係、家族関係、社会関係を様々な角度から見ることにより、対象を多面的に理解できるようにする。

【授業のねらい】

1. 社会学（ジェンダー論を含む）の知見に基づき、近現代における人間・家族・社会の関係を、理論的・実証的に理解する。

【講義計画】

1. 2. **【家族の諸相と家族を理解するための古典的概念】**
家族と呼ばれる人間関係（家族関係）の様々な姿を読み解くために、社会学に蓄積されてきた古典的アプローチを理解する。
3. 4. **【ジェンダーアプローチから見る家族】**
ジェンダー（「男」や「女」などの性別カテゴリーや付随する「らしさ」）および、それと家族関係の組成の関係を理解する。
5. 6. **【近代家族論から見る家族】**
「家族」と呼ばれる人間関係が近代社会の成立とともにいかに変容し、さらに今いかに変容しているかを理解する。
7. 8. **【子どもと家族】**
家族史上の「子ども」の位置づけを理解し、子どもにとって必要な人間関係（家族を含むより広いネットワーク）とはいかなるものかを理解する。
9. 10. **【家族問題】**
家族に生じる様々な問題のあり様を理解する。事例としてドメスティック・バイオレンス、児童虐待を取り上げる。なおこの回の講義については、個々の学生の事情に応じて、教室からの退室を認めます。ただし、この場合は、①予め講師あるいは職員に相談し許可をとった上で②講義の時間中に図書室で自習を行ってください。①②をもって講義への出席扱いとします。
11. **【家族と医療】**
近現代社会の特色のひとつ、医療化／脱医療化について理解する。医療制度の確立と同時に医療分野や家族にいかに関係してきたかについて理解し、いかに関係するべきかについて自分で考える力をつける。事例は生殖・妊娠・出産。
12. **【家族と福祉】**
高齢化社会の特色のひとつ、介護の社会化について理解する。主題は、ケア労働がいかに家族内で調達されてきたのか、これがいかに変容しつつあるのかである。事例は介護保険制度。
13. 14. **【性的少数者】**
近年、規範的な男性像や女性像（異性愛者であり、性自認が「生まれ」の性別に一致している）とは異なる生き方をする人々が可視化している。これらの人々が「家族」という制度につきつける問題について解説する。
15. **【予備】**
これまでの講義を振り返り家族と社会の関係について総括する。

【評価方法】

レポート：100 点

原則として、終講時のレポートの点数（100 点満点）で評価する。

ただし、夏休みのレポートを提出した場合には、その点数を終講時のレポートの点数に対して最大 25 点まで加算する。終講時のレポートで高得点を望めると自負のある者はレポートを提出する必要はない。

【教材】

教科書：なし

その他：必要に応じて、レジュメを配布する。教科書以外で重要な文献は授業ごとに紹介する。

【備考】

人間関係論

1単位（30時間 15コマ）

荻久保巳津子・椿 奈穂

【科目設定理由】

看護には、人間を深く理解することが求められている。生活している人間の理解と看護者としてのあり方、対人関係のもち方、対象である人間を理解する能力を養う。

【授業のねらい】

1. 自己理解・他者理解を深め、円滑な人間関係を築くための能力を養う。
2. グループワークを通して問題解決能力を養う。

【講義計画】

- 荻久保
1. 援助の人間関係論
 2. //
 3. コミュニケーション（自己理解・他者理解・傾聴）
 4. //
 5. グループ体験学習（集団、家族）
 6. //
 7. グループ体験学習（人間関係の向上のスキル）
 8. //
 9. //
 10. 人間関係の不安・ストレス対処法（リラクゼーション）
 11. //
 12. ソーシャルサポートネットワーク
 13. 科目修了試験
- 椿
14. 歌舞伎鑑賞教室
 15. //

【評価方法】

- 荻久保 グループ体験学習参加（出席評価）：30点
筆記試験：50点
- 椿 歌舞伎鑑賞教室レポート（640～800字）：20点
- ※ 出席状況、授業態度も加味する。

【教材】

教科書：＜系統看護学講座 基礎分野＞ 人間関係論

医学書院

【備考】

グループ体験学習は、全プログラムに参加し、振り返り用紙を提出すること。

発達心理学

1単位（30時間 15コマ）

福井 達雄

【科目設定理由】

人の生きる過程、発達の基礎を学び、心や行動を多面的に理解する視点を養う。出生から死までの発達の变化を理解し、適切に対応できる能力を養う。

【授業のねらい】

1. 基礎的な発達理論を理解する。
2. 人の身体的・運動機能的発達を理解する。
3. 認知・思考・情動といった内的過程の発達を理解する。

【講義計画】

1. 発達心理学を学ぶ意義について
2. 生涯発達の観点をふまえた人間発達理論
3. 胎児期・新生児の心理（例：胎児の特徴・親になる意識の成立過程・新生児のもつ能力の特徴・人間が受ける初期経験の重要性）
4. 乳幼児期の心理（例：知覚・認知の発達）
5. " （例：運動能力と身体の発達）
6. " （例：情緒・感情の発達）
7. " （例：愛着の形成）
8. " （例：知能の発達）
9. " （例：自己意識の発達）
10. 児童期の心理（例：認知の発達・仲間関係の発達）
11. 青年期の心理（例：アイデンティティの形成）
12. " （例：恋愛と結婚）
13. 成人期の心理（例：親密性の確立から世代性）
14. 高齢期の心理（例：高齢者の特徴・生きがいと人生の統合）
15. 自分自身の発達について・科目修了試験

【評価方法】

筆記試験：100点

【教材】

教科書：＜系統看護学講座 基礎分野＞ 心理学

医学書院

【備考】

健康スポーツ学

1単位（45時間 22.5コマ）

國井 直子・椿 慎司

【科目設定理由】

運動と健康に関する理解と認識を深め、身体を動かすことの意義を実感する。

【授業のねらい】

1. 心身の機能と運動の関係を学び、身体の発達、安静、機能回復の意味を理解する。
2. 運動を実施することで自己の健康を保持、増進できる。
3. 運動を通して気分転換することができる。

【講義計画】

- | | | | |
|-----|---|------------------------------|----------|
| 1. | } | 体育祭 (4/28) 2.5コマ 5時間 | ・・・市民体育館 |
| 2. | | | |
| 3. | | | |
| 4. | | 生活習慣病について・ヘルスプロモーションの定義と実践方法 | ・・・学校 |
| 5. | | マッサージ・筋トレの実践 | ・・・学校 |
| 6. | | ストレッチ・筋力トレーニング | ・・・地区体育館 |
| 7. | | 〃 | 〃 |
| 8. | | ソフトバレーボール | 〃 |
| 9. | | 〃 | 〃 |
| 10. | | 〃 | 〃 |
| 11. | | 〃 | 〃 |
| 12. | | バドミントン・卓球 | 〃 |
| 13. | | 〃 | 〃 |
| 14. | | 〃 | 〃 |
| 15. | | 〃 | 〃 |
| 16. | | バスケットボール・ドッチビー | 〃 |
| 17. | | 〃 | 〃 |
| 18. | | 〃 | 〃 |
| 19. | | 〃 | 〃 |
| 20. | | 入間准看生合同スポーツ大会 | ・・・市民体育館 |
| 21. | | 〃 | 〃 |
| 22. | | ボウリング大会 | ・・・富士ボウル |
| 23. | | 〃 | 〃 |

【評価方法】

参加点：体育祭 20点 授業 80点 欠課 1時間につき減点 2点とする。
 (参加状況を加味し、減点することもある。)

【教材】

必要に応じてプリント等を配布する。

【備考】

スポーツに楽しく参加し、怪我をしないように注意する。
 行事は欠席しないことを原則とする。

解剖学

1単位（30時間 15コマ）

晝間 恵

【科目設定理由】

人体の構造について系統的に学ぶ。

【授業のねらい】

1. 人体の構造を理解する。

【講義計画】

1. 解剖学とは、細胞
2. 組織、器官、人体の形状
3. 消化管
4. 膵臓・肝臓・胆嚢
5. 呼吸器、心臓
6. 末梢血管系、リンパ管、血液
7. 腎臓、排尿路
8. 自律神経、内分泌腺
9. 人体の骨格、骨の発生と成長
10. 骨格と筋
11. 神経系
12. 感覚器
13. 皮膚
14. 生殖・発生と老化
15. 科目修了試験・まとめ

【評価方法】

筆記試験：100点

【教材】

教科書：＜系統看護学講座 専門基礎分野＞ 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院

【備考】

生理学

1単位（30時間 15コマ）

晝間 恵

【科目設定理由】

人体の形態と機能を系統的に学ぶ。

【授業のねらい】

1. 人体の各器官・系統のもつ働きの意味を理解する。
2. 生命現象の仕組みを理解する。

【講義計画】

1. 生理学とは
2. 一般生理
3. 胆嚢消化・吸収
4. 呼吸
5. 血液
6. 心臓・循環
7. 体液・尿
8. 自律神経・ホルモンⅠ
9. ホルモンⅡ
10. 骨の働き・筋収縮
11. ニューロン・中枢神経
12. 感覚器
13. 生体防御
14. 生殖
15. 科目修了試験・まとめ

【評価方法】

筆記試験：100点

【教材】

教科書：＜系統看護学講座 専門基礎分野＞ 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学

医学書院

【備考】

生化学

1単位（30時間 15コマ）

穂苺 茂

【科目設定理由】

生体内における物質代謝の機能を理解する。また人間の健康にとって必要な栄養を理解し、対象の看護に活かす。

【授業のねらい】

1. 人体の基本単位である細胞の構造と機能を理解する。
2. 栄養と代謝、代謝産物の排泄について理解する。
3. 遺伝のしくみについて理解する。
4. 栄養の意義を理解する。

【講義計画】

1. 生化学序論：栄養、物質代謝
第1章 人体の仕組み：細胞、生体分子、栄養素
2. 第2章 タンパク質の構造と働き：アミノ酸、ポリペプチド、不可欠アミノ酸、尿素生成
3. 第3章 糖質の構造と働き：グルコース、二糖、グリコーゲン、解糖、クエン酸回路、糖新生
血糖調節
4. 第4章 脂質の構造と働き：脂肪酸、中性脂肪、リン脂質、コレステロールの代謝、
リポタンパク質、脂肪酸の分解と合成
5. 3大栄養素の役割：栄養素の価値、ライフサイクルと栄養
6. 第5章 核酸の構造と働き：ヌクレオチド、DNA、RNA、遺伝子の変異、
痛風、抗ガン剤、遺伝暗号とタンパク質
7. 第6章 酵素の性質と働き：触媒、酵素分子の性質、代謝の調節、診断酵素
8. 第7章 ビタミンの種類とはたらき：種類と分類、作用、欠乏症、過剰症
9. 第8章 水・無機質のはたらき：体液の組成、体内の無機質
10. 第9章 栄養素の消化・吸収：消化のステップ、細胞膜の通過
11. 第10章 生体の恒常性を保つシステム：ホルモンの種類、シグナル伝達、
ホルモンの作用、(pHと緩衝作用)
12. 第11章 エネルギーの消費と供給：エネルギー物質、ATPの産生、貯蔵エネルギー
13. 第12章 防御：血液凝固、免疫、(ヘム代謝)
14. 栄養の供給：栄養供給法、基礎代謝、エネルギー所要量、サプリメント
15. 科目修了試験・まとめ

【評価方法】

筆記試験：100点

【教材】

教科書：＜系統看護学講座 専門基礎分野＞ 人体の構造と機能2 生化学

医学書院

参考文献：相原ほか：イラスト 生化学入門 栄養素の旅 第3版、東京教学社、2019.

【備考】

病理学

1単位（30時間 15コマ）

佐藤 仁哉・熊澤 文久

【科目設定理由】

疾病によって形態や機能・代謝の異常がどのように生じるかを学び、病態と治療及び看護に活かす。

【授業のねらい】

1. 疾病の原因や発生病理を理解する。

【講義計画】

- 佐藤 1. 病理学とは
2. 循環障害
- 熊澤 3. 炎症
4. 免疫病理
5. 感染症
6. 代謝異常
7. 腫瘍1
8. 腫瘍2
- 佐藤 9. 老化と死
10. 先天異常、遺伝子異常
- 熊澤 11. 各論1（腎、尿路）
- 佐藤 12. 各論2（循環器）
13. 各論3（呼吸器）
14. 各論4（消化器）
15. 科目修了試験・まとめ

【評価方法】

筆記試験：100点

【教材】

教科書：＜系統看護学講座 専門基礎＞ 疾病のなりたちと回復の促進1 病理学 医学書院

【備考】

微生物学

1単位（30時間 15コマ）

川手 喬

【科目設定理由】

感染症の原因となる微生物について理解し、感染・生体防御機構、発病、感染予防と治療を学ぶ。

【授業のねらい】

1. 微生物の特性と人体に及ぼす影響を理解し、対象の安全や感染予防の必要性を学ぶ。

【講義計画】

1. 微生物の性質、微生物と人間の関係および微生物学の対象と目的
2. 細菌の形態と特徴、培養環境と栄養、細菌の遺伝、細菌の分類および常在細菌叢
3. 真菌の形態と特徴、真菌の増殖、真菌の分類と命名法および原虫の特徴と基本構造
4. ウイルスの特徴、ウイルスの構造と各部分の形態、ウイルスの増殖およびウイルスの分類
5. 細菌・真菌・原虫・ウイルス感染の機構および感染の発症から治癒まで
6. 病原細菌と細菌感染症（グラム陽性・陰性球菌、グラム陽性・陰性桿菌）
7. " （好酸菌、放線菌、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア）
8. 病原真菌と真菌感染症および病原原虫と原虫感染症
9. おもなウイルスとウイルス感染症（DNAウイルス）
10. " （RNAウイルス）
11. 感染に対する生体防御機構（自然免疫のしくみ
12. " （獲得免疫のしくみ）
13. 感染源・感染経路からみた感染症（経口感染・経気道感染・接触感染・経皮感染・母子感染）
14. 感染症の診断および感染症の治療（化学療法の基礎および各種化学療法薬）
15. 科目修了試験・まとめ

【評価方法】

筆記試験：100点

【教材】

教科書：＜系統看護学講座 専門基礎分野＞疾病の成り立ちと回復の促進 4 微生物学 医学書院
 その他：プリントにて配布予定

【備考】

病態と治療 I (呼吸器・循環器・造血器)

1 単位 (30 時間 15 コマ)

田川 齊之・野中 晴彦

【科目設定理由】

健康障害をもつ対象者の病態のメカニズムとその治療、検査、予後について学び、各看護学に活かす。

【授業のねらい】

1. 各系統別の疾病に関する病態・検査・治療・予後を理解し、看護に役立てる。

【講義計画】

- | | | |
|----|----------------|-----------------|
| 田川 | 1. 呼吸のメカニズム | |
| | 2. 呼吸機能障害 | 慢性閉塞性肺疾患、気胸、結核 |
| | 3. " | 肺癌 |
| 野中 | 4. 循環のメカニズム | |
| | 5. 循環機能障害 | うっ血性心不全 |
| | 6. " | " |
| | 7. " | 虚血性心疾患 |
| | 8. " | " |
| | 9. " | 大動脈瘤 —外科治療— |
| | 10. 血液 | |
| | 11. " | |
| | 12. 免疫 | |
| | 13. " | |
| | 14. " | |
| | 15. 科目修了試験・まとめ | |

【評価方法】

筆記試験：田川	20 点
野中	80 点

【教材】

教科書：<系統看護学講座 専門分野>	成人看護学 2	呼吸器	医学書院
<系統看護学講座 専門分野>	成人看護学 3	循環器	医学書院
<系統看護学講座 専門分野>	成人看護学 4	血液・造血器	医学書院

【備考】

病態と治療Ⅱ（脳神経系・運動器・感覚器）

1単位（30時間 15コマ）

大貫 学・柏木 忠範・河井 信一郎・大前 由紀雄・桑田 富美恵

【科目設定理由】

健康障害をもつ対象者の病態のメカニズムとその治療、検査、予後について学び、各看護学に活かす。

【授業のねらい】

1. 各系統別の疾病に関する病態・検査・治療・予後を理解し、看護に役立てる。

【講義計画】

大貫 1. 頭蓋内のメカニズム

2. 脳血管障害 脳梗塞（血栓と塞栓）

3. " "

4. " 脳内出血（SAH等）、水頭症

5. " 脳腫瘍

柏木 6. 運動器系疾患 骨折 脱臼 脊椎障害

7. " 慢性関節リウマチ 骨腫瘍

8. " 神経障害 循環障害 拘縮 疼痛 運動障害 関節痛

河井 9. 眼科系疾患 網膜剥離 緑内障

10. " 白内障 視覚障害

大前 11. 耳鼻咽喉科系疾患 喉頭癌 咽頭癌 舌癌

12. " 永久気管口 聴覚障害

桑田 13. 局所麻酔の知識と実際

14. "

15. 科目修了試験・まとめ

【評 価】

筆記試験：大貫 40点

柏木 30点

河井 10点

大前 10点

桑田 10点

【教 材】

教科書：大貫 <系統看護学講座 専門分野> 成人看護学7 脳・神経 医学書院

柏木 <系統看護学講座 専門分野> 成人看護学10 運動器 医学書院

河井 <系統看護学講座 専門分野> 成人看護学13 眼 医学書院

大前 <系統看護学講座 専門分野> 成人看護学14 耳鼻咽喉 医学書院

桑田 <系統看護学講座 別巻> 臨床外科看護総論 医学書院

参考文献：<系統看護学講座 専門基礎分野>人体の構造と機能1 解剖生理学 医学書院

【備 考】

病態と治療Ⅲ（消化器・泌尿器・内分泌系）

1 単位（30 時間 15 コマ）

原田 佳明・河崎 佳美・高野 紀子

【科目設定理由】

健康障害をもつ対象者の病態のメカニズムとその治療、検査、予後について学び、各看護学に活かす。

【授業のねらい】

1. 各系統別の疾病に関する病態・検査・治療・予後を理解し、看護に役立てる。

【講義計画】

原田	1. 消化器系疾患	胃癌	ダンピング症状	吐血
	2. //		//	
	3. //	大腸癌	下血	
	4. //	肝硬変	腹水	黄疸 腹部膨満
	5. //	潰瘍性大腸炎	下痢	
河崎	6. 腎泌尿器系疾患	腎・膀胱癌		
	7. //	腎不全、ネフローゼ症候群		
	8. //	転移	浮腫	
高野	9. 内分泌系疾患	甲状腺疾患（甲状腺機能亢進症 甲状腺機能低下症） 甲状腺クリーゼ テタニー		
	10. //	下垂体疾患 （末端巨大症 クッシング病 下垂体機能低下症 尿崩症）		
	11. //	副腎疾患 （クッシング症候群 アルドステロン症 アジソン病 褐色細胞腫）		
	12. //	糖尿病 痛風 高脂血症 高尿酸血症 肥満症		
	13. //	//		
	14. //	//		
	15. 科目修了試験・まとめ			

【評価方法】

筆記試験：原田	35 点
齊藤	20 点
高野	45 点

【教材】

教科書：原田	<系統看護学講座 専門分野>	成人看護学 5	消化器	医学書院
齊藤	<系統看護学講座 専門分野>	成人看護学 8	腎・泌尿器	医学書院
高野	<系統看護学講座 専門分野>	成人看護学 6	内分泌・代謝	医学書院

【備考】

病態と治療Ⅳ（女性生殖器）

1単位（15時間 7.5コマ）

高屋敷 留美子・大谷 三和子

【科目設定理由】

健康障害をもつ対象者の病態のメカニズムとその治療、検査、予後について学び、各看護学に活かす。

【授業のねらい】

1. 各系統別の疾病に関する病態・検査・治療・予後を理解し、看護に役立てる。

【講義計画】

- | | | |
|-----|----------------|-------------|
| 高屋敷 | 1. 女性生殖器系健康障害 | 女性生殖器の構造と機能 |
| | 2. 〃 | 症状と病態生理 |
| | 3. 〃 | 診察・検査と治療・処置 |
| | 4. 〃 | 疾患の理解 |
| | 5. 〃 | 〃 |
| 大谷 | 6. 乳腺疾患 | |
| | 7. 〃 | |
| | 8. 科目修了試験（45分） | |

【評価方法】

筆記試験：高屋敷 80点
大谷 20点

【教材】

教科書：＜系統看護学講座 専門分野Ⅱ＞ 成人看護学〔9〕女性生殖器

医学書院

【備考】

薬理学

1単位 (30時間 15コマ)

原 一恵・橋本 祐一

【科目設定理由】

薬物の特性・作用・副作用を理解し、各看護学に活かす。

【授業のねらい】

1. 薬物の特性・作用・副作用について基本的知識を学ぶ。
2. 人体への影響及び薬物の管理について理解する。
3. 薬剤師の服薬指導を学び、薬理学の臨床での活用を理解する。

【講義計画】

原	1.	臨床薬理とは 総論(1)	薬物療法における看護師の役割 薬物の種類とそれに伴う管理の違い
	2.	臨床薬理とは 総論(2)	薬理作用に関与する体内の仕組み 薬理作用に影響を与える因子、遺伝子多型/治療の個別化
橋本	3.	臨床薬理とは 総論(3)	薬物の体内での動きを知る(吸収・分布・代謝・排泄)
	4.	臨床薬理とは 総論(4)	薬物相互作用・有害作用(種類と対処法) 適用方法による作用の違い
原	5.	各論(1) 各薬物の作用機序、副作用、適応	抗感染症薬
	6.	各論(2)	抗がん薬, 免疫治療薬
橋本	7.	各論(3)	抗アレルギー薬・抗炎症薬
	8.	各論(4)	自律神経作用薬
	9.	各論(5)	中枢神経系に作用する薬物
	10.	各論(6)	救急に用いる薬物, ビタミン, 漢方薬, 消毒薬
原	11.	各論(7)	循環器系に作用する薬物
	12.	各論(8)	血液系/呼吸器系に作用する薬物
	13.	各論(9)	消化器/生殖器系に作用する薬物
	14.	各論(10)	物質代謝に作用する薬物/まとめ
	15.	科目修了試験	

【評価方法】

筆記試験：原・橋本 100点

必要に応じてレポートの提出を課すことがある。

【教材】

教科書：<系統看護学講座 専門基礎> 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院

参考文献：小山岩雄；看護学生のための薬理学ドリル

昭林社

【備考】

薬理学の理解に生理・解剖・病理等の基礎科目の知識は不可欠である。また、各論の薬物すべてを授業時間内で網羅することは不可能である。国家試験での出題は全範囲にわたることもあり、修了試験範囲は授業範囲だけでなく教科書1冊とする。このため、授業終了後に試験勉強を開始するのではなく、夏休みを利用して前期科目を復習し、授業開始前に教科書全体に目を通し、問題集を利用するなど、時間をかけて勉強すること。授業は疑問点の解決に利用すること。

生命倫理

1単位（15時間 7.5コマ）

関根 靖光

【科目設定理由】

生命とは何か、人間とは何かを深く考えることで看護の対象を理解する一助とする。

【授業のねらい】

1. 生命に関する基本的理念や倫理観を養う。
2. 医療、看護の望ましいあり方、考え方などを自覚する。

【講義計画】

1. 人体発生学から、自分をこの世に送り出した生命の肯定的働きを理解し、自分がこの世に生誕したことを感謝しつつ受容すべきである。人工/体外受精・ES細胞・堕胎・人工妊娠中絶などを考える。
2. 防御・免疫やホメオスタシスのメカニズムから、最後の瞬間まで自分を今ここに生かそうとする生命の肯定的働きを理解し、自分が今ここに生き存在することを善として肯定的に受容すべきである。
3. 身体内生命（＝自己）の精妙な生命・生体維持の働きは、環境から食物を獲得する等の自我の補助的働きなしには不可能で、代謝等の生命・生体維持を補助すべき自我の責務と権限について考える。
4. 自我には生命補助だけでなく、それに形を与えて個性的生活を営み人生を創る責務と権限がある。自我は身体の主人・所有者ではない。自傷・自殺、自己臓器の売買、安楽死・尊厳死等を考える。
5. 他者の生命（＝他己）は最期の瞬間まで他者を生かし存在させるが、自我は他己の肯定的働きを善として認容すべきである。他己は自我が処理・処分できる所有物ではない。他傷・他殺・DVを考える。
6. 他我には最期の瞬間まで自らの生命（＝他己）を補助し個性的生活・人生を創出する責務と権限がある。自我は他我のこの自己決定権を認め尊重すべきである。インフォームド・コンセントを考える。
7. 病気や老衰等で自分の生命・生体維持が困難なとき、自我は自分の責務を準委任契約によって医療法人に委託する。患者と病院の契約関係を理解すると共に、その根底にあるべき人格的關係を考える。
8. 科目修了試験

【評価方法】

創作課題・筆記試験：合計100点

出席を重んじる。

教場でのリアクションペーパー、看護物語の創作課題、筆記試験を総合して評価する。

【教材】

参考文献：塩野 寛ほか：生命倫理への招待 第5版，南山堂，2015.

【備考】

看護学概論

1単位（30時間 15コマ）講義・演習

椿 奈穂・高野 紀子

【授業概要】

看護の歴史を築いた先人の教えから、看護の概念、対象としての人間のとらえ方、健康、環境の考え方、看護の本質を探究する。

看護師臨床経験のある教員から看護を業として人生設計をしていく学生に看護の魅力を伝え、看護の目的や役割機能について学び、看護の概略を理解する。（DP1, DP2, DP5, DP6）

【科目目標】

1. 看護の歴史的変遷を通して、看護の概念、看護の役割を理解する。
2. 看護の対象である人間を身体的、心理的、社会的存在の統一体として理解する。
3. 人間の発達段階を理解し、看護の対象である人間をあらゆる健康レベル、予防介入からとらえることができる。
4. 保健医療福祉における看護活動を通し、看護の機能と役割を理解する。
5. 看護の先人から「看護とは何か」について理論的な見方を学び、さらにヘンダーソンの看護論の概念と特徴について理解する。

【講義計画】

- | | |
|----|----------------------------|
| 椿 | 1. 看護とは何かを考える；さまざまな定義と看護理論 |
| | 2. ナイチンゲールとヘンダーソン看護論 |
| | 3. 看護の役割と機能 |
| | 4. 看護の対象の理解 |
| | 5. 人々の暮らし；地域や文化 |
| | 6. // |
| 高野 | 7. 看護における倫理 |
| | 8. 看護の提供のしくみ；看護管理・医療安全 |
| 椿 | 9. 国民の健康状態と生活 |
| | 10. 看護の提供者 |
| | 11. 看護過程の意義・構成要素 |
| | 12. 看護過程の展開 |
| | 13. 科目修了試験・まとめ |
| | 14. 講演会 |
| | 15. // |

【評価方法】

筆記試験： 80点（課題提出を含む）

講演会レポート（640～800字）： 20点

【教材】

教科書：＜系統看護学講座 専門分野＞基礎看護学1 看護学概論 第17版

医学書院

参考図書：看護の基本となるもの

日本看護協会出版会

看護過程を使ったヘンダーソンの看護論の実践 第4版

ヌーヴェルヒロカワ

ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト 第4版

ヌーヴェルヒロカワ

看護覚え書

現代社

DVD：西の魔女が死んだ

生活機能のアセスメント 1単位（30時間 15コマ）講義

國井 直子・須田 由紀・桑田 富美恵・安藤 真紀・堤 静香

【授業概要】

看護師臨床経験のある教員から看護の対象のとらえ方を学び、生活機能の視点からアセスメントすることを学び、援助方法を理解する。(DP1, DP3, DP4, DP5)

【科目目標】

1. 人間の基本的欲求を理解し、身体各部の査定について理解できる。
2. 生活機能に基づいて、生活行動の援助方法を理解できる。
3. 援助に必要な解剖を理解し、アセスメントに活用できる。

【講義計画】

國井 1. ヘンダーソン看護論に基づいた生活行動の援助法

須田 2. ヘルスアセスメント

3. "

4. "

5. 呼吸・循環を整える援助

國井 6. 食事援助

7. 排泄援助

安藤 8. 活動援助、転倒転落防止

須田 9. 睡眠休息援助

堤 10. 清潔援助

桑田 11. 環境調整

須田 12. 感染防止

安藤 13. 創傷管理

國井 14. 与薬援助

國井 15. 科目修了試験・まとめ

【評価方法】

筆記試験：100点（各教員 10～20点）

【教材】

教科書：基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ
 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ

医学書院

医学書院

生活機能を支える看護技術

1単位（30時間 15コマ）演習

國井 直子・須田 由紀・桑田 富美恵・安藤 真紀・堤 静香

【授業概要】

生活機能のアセスメントを基に、看護師臨床経験のある教員から看護技術を学ぶことで、看護技術の特徴を理解し、看護実践を支える態度や行為の構成要素に沿った援助技術を学ぶ。（DP1, DP3, DP4, DP5）

【科目目標】

1. フィジカルアセスメントを実施できる。
2. 正しい観察技術を身につけ、根拠に基づいた実践方法を理解できる。

【演習計画】

- | | | |
|----|-----|------------------|
| 須田 | 1. | ヘルスアセスメントの実際 |
| | 2. | 〃 |
| | 3. | 呼吸・循環を整える援助技術 |
| 國井 | 4. | 食事援助技術 |
| | 5. | 排泄援助技術 |
| | 6. | 〃 |
| 安藤 | 7. | 活動援助技術（転倒転落防止含む） |
| 堤 | 8. | 清潔援助技術 |
| | 9. | 〃 |
| 安藤 | 10. | 〃 |
| 須田 | 11. | 感染防止技術 |
| 桑田 | 12. | 安全な環境調整 |
| 國井 | 13. | 与薬の技術 |
| 須田 | 14. | 実技試験に向けた自己演習 |
| | 15. | 実技試験 |

【評価方法】

実技試験：100点

評価表に基づき、担当教員が評価する。

【教材】

教科書：基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ
基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ

医学書院
医学書院

暮らしを支える看護

1単位（30時間 15コマ）講義・演習

岡林 温子・椿 奈穂・安藤 真紀

【授業概要】

看護師臨床経験のある教員とともにフィールドワークをするための基礎知識を学び、地域の特性をとらえるための地域マップ等資料を作成し、発表する。(DP1, DP2, DP5, DP6, DP8)

【科目目標】

1. 地域の暮らしを通してニーズをとらえることができる
2. 地域にどのような健康レベルの人々が暮らしているか理解できる。
3. 各期の発達の特徴・役割・課題・環境と健康との関連について理解できる。
4. ライフステージ各期にある人々のさまざまな暮らしを理解できる。
5. 災害対策における地域・在宅の特性を理解できる。
6. 対人関係プロセスとしてのコミュニケーションの理解を深め、看護師としての態度を学ぶことができる。

【講義・演習計画】

- | | | |
|----|--|----|
| 安藤 | 1. 人々の暮らしと地域・在宅看護 | |
| | 2. 暮らしを理解する（グループワーク①） *1 | |
| | 3. 暮らしの基盤としての地域の理解 | |
| | 4. 地域を理解する（グループワーク②） *2 | |
| 岡林 | 5. マナー講座 *3 | |
| | 6. // | |
| 椿 | 7. インタビューの技術・演習 | |
| 安藤 | 8. 地域探検（二本木、宮寺地区）、事前準備、地域・行政との関連、地域マップ等の資料作成（グループワーク） *4 | |
| | 9. | // |
| | 10. | // |
| | 11. | // |
| | 12. | // |
| | 13. | // |
| | 14. グループワーク発表 | |
| | 15. // *5 | |

【評価方法】

課題	*1 *2	各 15 点
	*3 *5 （レポート 640～800 字）	各 10 点
	*4 （グループ評価）	50 点

課題の評価：提出期限 1 日遅延につき 2 点減点とする。
提出時間遅延の場合は 1 点減点とする。

【教材】

教科書：＜系統看護学講座 専門分野＞ 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 医学書院
その他：配布資料

成人・老年看護概論

1単位（30時間 15コマ）講義・演習

國井 直子・須田 由紀・外部講師

【授業概要】

成人・老年看護学の臨床経験のある教員らが授業を行い、成人期以降の発達課題やライフサイクルからみた対象を理解できるようにする。また、健康生活及び健康問題にかかわる成人・老年期対象の看護の視点を広げることができるよう学ぶ。（DP1, DP2, DP3, DP4）

【科目目標】

1. 成人・老年看護の意義と役割を理解できる。
2. ライフサイクルにおける成人・老年期看護の特徴から、対象が理解できる。
3. 保健医療福祉の動向と対策から看護の役割を理解できる。
4. 生活環境や生活習慣の健康への影響を知り、看護の視点を広げることができる。

【講義計画】

- | | | |
|----|-------------------------------|------------|
| 須田 | 1. 発達課題・ライフサイクルから見た成人期の特徴 | |
| | 2. 成人期にかかわる保健統計と保健医療福祉の動向・政策 | |
| 國井 | 3. 発達課題・ライフサイクルから見た老年期の特徴 | |
| | 4. 老年期にかかわる保健統計と保健医療福祉の動向・政策 | |
| | 5. 加齢に伴う身体機能と認知機能の変化 | |
| | 6. 高齢者の人権擁護 | |
| 須田 | 7. 健康を脅かす要因と看護 ①ストレスマネジメント | |
| | 8. ②食生活が健康に及ぼす影響 | |
| | 9. ③生活環境が健康に及ぼす影響 | ※1 外部講師 |
| | 10. 疾患を抱えながら生活する人を知る ①がんサバイバー | ※2 外部講師 |
| | 11. " ②難病 | ※2 外部講師 |
| | 12. 健康な生活とは何かを考える | ※3 グループワーク |
| | 13. " | |
| | 14. " (発表) | |
| | 15. 科目終了試験 | |

【評価】

- レポート課題：※1 10点
 ※2 20点（2コマ合わせて）
 ※3 20点（欠席の場合減点あり 1コマ欠席5点減点）

筆記試験：50点（國井 30点、須田 20点）

【教材】

教科書： <系統看護学講座 専門分野Ⅱ> 成人看護学概論 医学書院
 <系統看護学講座 専門分野Ⅱ> 老年看護学概論 医学書院

厚生指針 増刊 国民衛生の動向 2022/2023

厚生労働統計協会

【備考】

必要に応じて課題を出す場合あり。

健康保持・増進する看護

1単位（15時間 7コマ）講義

須田 由紀・ 外部講師

【授業概要】

看護師臨床経験の中で教員が考える人生設計を頼りに、ライフステージに沿ってセルフマネジメントについて学び、看護実践のあり方を理解する。(DP1, DP3, DP4, DP5)

【科目目標】

1. セルフマネジメントが必要な対象とその家族について理解できる。
2. ライフステージや健康レベルに応じた看護実践のあり方が理解できる。
3. 人生の最終段階にある対象について理解できる。

【講義計画】

1. セルフマネジメントが必要な対象者（アドヒアランス）
2. 〃
3. 行動変容を促す健康教育の方法 変化のステージモデル
4. 〃 ※外部講師
5. 人生の最期のときを支える医療の現状
6. 人生の最期のときを支える看護 がん看護の実際 ※外部講師
7. 〃 〃
8. 科目終了試験

【評価】

筆記試験： 100点

【教材】

教科書：	<系統看護学講座 専門分野Ⅱ> 成人看護学概論	医学書院
	<系統看護学講座 専門分野Ⅱ> 老年看護学概論	医学書院
	<系統看護学講座 別巻> 緩和ケア	医学書院
	<系統看護学講座 別巻> がん看護学	医学書院

厚生指 標	増刊	国民衛生の動向	2022/2023	厚生労働統計協会
-------	----	---------	-----------	----------

【備考】

必要に応じて課題を出す場合あり。

小児看護概論

1単位（30時間 15コマ）講義・演習

桑田 富美恵

【授業概要】

健康な子どもの成長発達を理解し、子どもを取り巻く環境と現代の家族や社会の状況を学ぶ。看護師臨床経験のある教員から権利を有する一人の人として子どもを尊重する大切さを伝え、さまざまな健康レベルの子どもが社会の中で健やかに成長発達し生きていくために必要な看護師の役割を学ぶ。(DP1、DP2、DP8)

【科目目標】

1. ライフサイクルからみた小児各期の特徴を理解できる。
2. 小児とその家族の特徴を理解できる。
3. 小児看護の理念・目的・役割について総合的に理解できる。
4. 健康な小児の日常生活を理解できる。
5. 健康な小児各期の日常生活援助の方法を理解できる。

【講義・演習計画】

1. 小児看護とは 変遷
2. 小児の法律と政策
3. 小児看護における理論
4. 新生児の子どもの成長・発達
5. 乳児期の子どもの成長・発達
6. 幼児期の子どもの成長・発達
7. 学童期の子どもの成長・発達
8. 思春期の子どもの成長・発達
9. 小児各期の栄養の特徴と食生活
10. 子どもと家族を取り巻く社会
11. 起こりやすい事故
12. 予防接種
13. 学校保健
14. 視野めがね体験（演習）
15. 科目修了試験・まとめ

【評価方法】

筆記試験：100点

【教材】教科書：＜系統看護学講座 専門分野＞ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論
医学書院

参考文献： 厚生省の指標 増刊 国民衛生の動向 2022/2023 厚生労働統計協会

【備考】

精神看護概論

1単位（30時間 15コマ）講義

中島 真由美・堤 静香

【授業概要】

精神看護臨床経験のある教員らが授業を行い、精神障害者の処遇の歴史と精神保健福祉の変遷、動向と施策を理解し、精神の健康の意義と精神看護の基本的な考え方を学ぶ。また、精神疾患について講義形式で学ぶ。（DP1、DP2、DP3、DP7）

【科目目標】

1. 精神看護の概念を理解できる。
2. 精神保健医療福祉の変遷、動向と施策を理解できる。
3. 精神の健康の意義を理解できる。
4. 精神障害の現れ方の特徴を理解できる。
5. 精神疾患の病態と治療を理解できる。

【講義計画】

- | | |
|----|---|
| 堤 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学の概念 2. 社会の中の精神障害 3. 精神保健福祉制度（精神保健福祉法を中心に） 4. " "（障害者総合支援法を中心に） 5. 精神障害と法制度 6. 精神障害に関する理解（映画鑑賞） 7. " " |
| 中島 | <ol style="list-style-type: none"> 8. 精神疾患の概念 入院治療の知識 9. 主な疾患 統合失調症 10. " " 神経症性障害 単極性うつ病性障害 双極性障害 パーソナリティ障害 11. " " " 12. " " 物質依存 アルコール依存 薬物依存 てんかん 13. " " 発達障害 認知症 14. 治療と検査 精神保健福祉 15. 科目修了試験・まとめ |

【評価方法】

筆記試験：中島	60点
堤	40点

【教材】

教科書：＜系統看護学講座 専門分野Ⅱ＞	精神看護学①	精神看護の基礎	医学書院
＜系統看護学講座 専門分野Ⅱ＞	精神看護学②	精神看護の展開	医学書院

【備考】